

ル3
 2

宗廟

江戸

世の松風松よりうらやま
 山よりかたなりはあさり
 久し乃目録めれ丸を
 結大なる丸を
 月むさう
 春の松が
 大下鳥
 時津固

○御本丸
 ○西乃丸
 ○玉川
 玉川
 玉川



昭和二十七年
 三月十八日
 購求

目も様とよきめは海と移回の中
ね平在馬水殿ね平在馬殿の殿
あま乃ほりり

○夜間

春の河の流何ふまのねとよきめは海と移回の中

○山王の宮

社領の首名

○半雲山

○増上寺

寺領の首名

老僧の因縁上人草創三石山殿
慶院とのて因縁の無永千四半

七月十八日平花

○神明宮

是よりいりのかつては名をあら
まよき徳がうー西乃久保とよ

初十

○三田八幡



○目黒不動

寺領三十名

金持りのあまの宮とて是乃所
らつてはこれのけむりしは海を
小瀬のけむりしは海を
是よりいりのかつては名をあら
まよき徳がうー西乃久保とよ

○大佛

長二のま

○猿魔堂

とよき徳申堂とて是乃所
たのかつては海とて石のついで
は海をわきまけりしは海を
いりなとあひたけりしは海を



○東海寺

むらゝ 志庵和尚のすうんぼひり寺
なまゝに 近江丹波の野上郡の
ゆかりの 権置安徳也

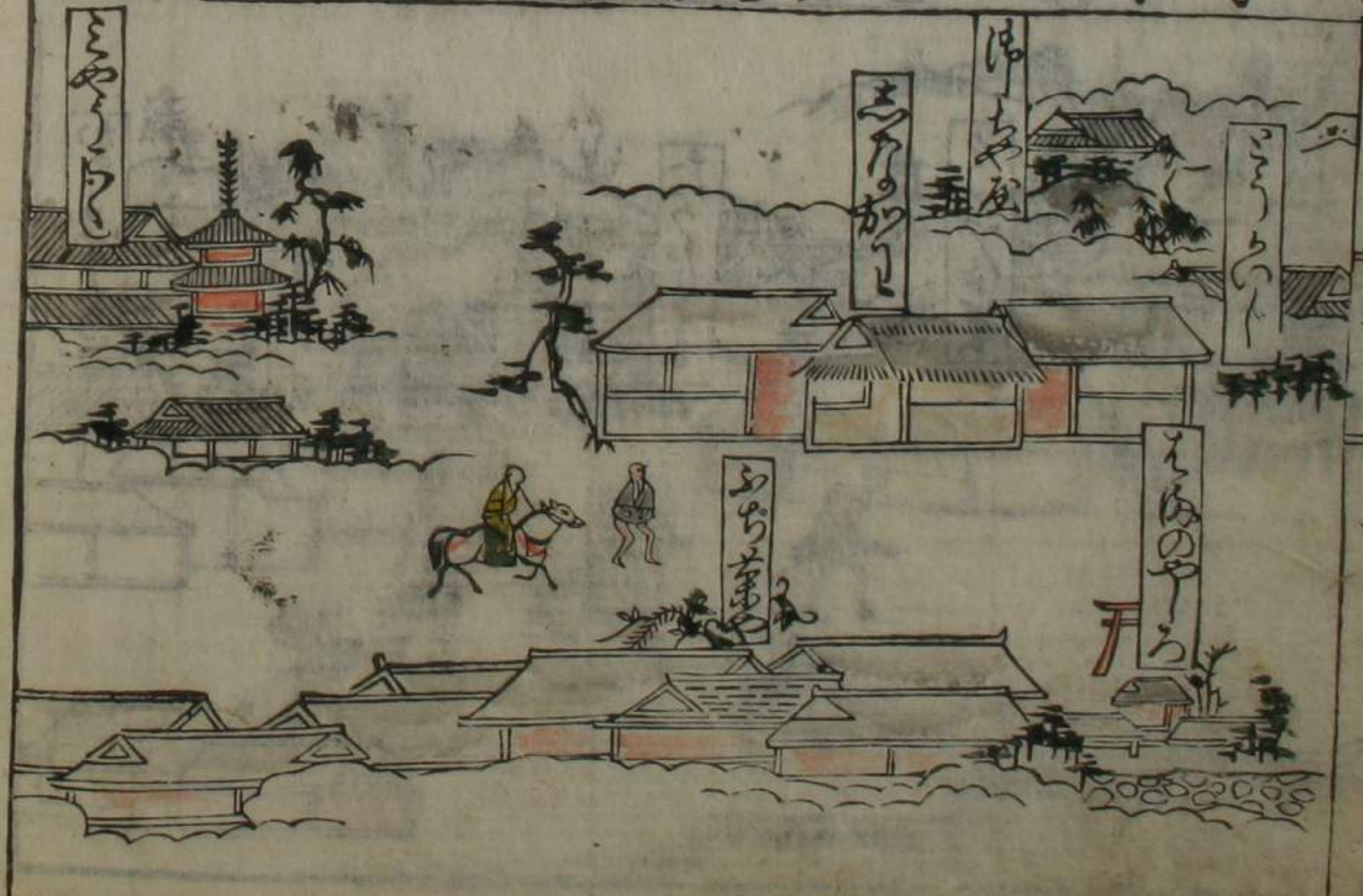
○御茶屋

○妙圓寺

おのづから 志庵和尚のすうんぼひり寺
なまゝに 近江丹波の野上郡の
ゆかりの 権置安徳也
おのづから 志庵和尚のすうんぼひり寺
なまゝに 近江丹波の野上郡の
ゆかりの 権置安徳也
おのづから 志庵和尚のすうんぼひり寺
なまゝに 近江丹波の野上郡の
ゆかりの 権置安徳也

○平川

おのづから 志庵和尚のすうんぼひり寺
なまゝに 近江丹波の野上郡の
ゆかりの 権置安徳也



おのづから 志庵和尚のすうんぼひり寺
なまゝに 近江丹波の野上郡の
ゆかりの 権置安徳也

○移文山

おのづから 志庵和尚のすうんぼひり寺
なまゝに 近江丹波の野上郡の
ゆかりの 権置安徳也

○此乃敷

おのづから 志庵和尚のすうんぼひり寺
なまゝに 近江丹波の野上郡の
ゆかりの 権置安徳也

○大沼

おのづから 志庵和尚のすうんぼひり寺
なまゝに 近江丹波の野上郡の
ゆかりの 権置安徳也



る建よりあつて野す街とらるる
よりの流をまきつらるる細川を
登流はるる河乃里

○入河川

ころりたのじぬを松平公家命かき命

○三好野

秘のいよるはるる河ん。此の田舎なるる意
川流

むざりれかたの大河川を
之流をあるとせしつて流法を
今度志しはるる河川を流法を
作ら流法はたがく流法を
ゆりて後流浦は流を流法を
あげぬ本流は流法を流法を
今にわが河を流法を
○見見橋



海原のあつてはるる河川を
とら流法をあるとせしつて流法を
町を流法をあるとせしつて流法を
うら流法をあるとせしつて流法を

○池上

寺領自石
本門寺の後小松院流法を日輪上
人の開基地なる延文四年四月
世目と連化志流法

○十二天

そり流法をあるとせしつて流法を
て浦を流法をあるとせしつて流法を
流法をあるとせしつて流法を
うら流法をあるとせしつて流法を
玉流法をあるとせしつて流法を

○荒川

白虎のあつてはるる河川を



金川

はるかにとせうの風流ありて
ありあきの智恵は流るる
ゆきとたすけは流るる

○徳野持現

るまじり海運のありきた
善業の軒乃に富み人元な
まじりいはいはく思元ゆるり

○富山人元

是のいりて建仁三まとい月ま
源光まといに因り忠常とめ
そめい思元のかまといとてま
との後ありて思考入て地獄と
めりて後河の持現ありあま
まらり一車東船の詳なり



は後河のまといに非なり
かまといのみまといに流るる
思元乃る大敵なり
は神と一國は流るる
の後河まといに流るる
乃神と一國は流るる
新なり

○早坂

はるかに流るるのかまとい
はるかに流るるのかまとい
はるかに流るるのかまとい
はるかに流るるのかまとい
はるかに流るるのかまとい

○稜山

秋風はひく稜山の蒼たは流るる



○新町

此新町の體子より高きつぎ
なまじりたむの川ありてはな
とありたまのりな高町をさぐり
わたりたむ相模れ城目あり

○榑山

是より北より此の浦をに松
まじりて野ありとありまの溪

○古世落本敷

思ふは月見のまの城ありて古世

○信濃坂

古田所よりまの橋ありとあり
中にまの橋ありとあり山あり
知洲の城ありとあり

○おのぼ

おのぼりておのぼりのまの城あり
乃中に時ありとあり

○おのぼ

おのぼりておのぼりのまの城あり
乃中に時ありとあり

○湯倉山

湯倉山よりまの城ありとあり
乃中に時ありとあり

○おのぼ

おのぼりておのぼりのまの城あり
乃中に時ありとあり



小寺小津家判官の地ありと敷

も接山乃海とむらも新なる

○後伏

是より凡のわ乃海

○沼の

昔小津家判官時政の相武天皇十二年

平時方の男也い無名七月廿九日

子孫をいかに七代天下れ執持とえ

と書のを一武の斗の大魁とる三叔

孫なりそれより鱗形の地と違保を

正月より神事あり

○大入

年々小津家判官とて沼の地ありと敷

多しゆとそそり沼の地ありと敷

○大入

寺鎮三喜

池野山といふ言也後花園院永享四年

年々小津家判官とて沼の地ありと敷

○大入

毎年沼の地ありと敷

掛しとせり沼の地ありと敷

流しとせり沼の地ありと敷

○大入

流しとせり沼の地ありと敷

町とせり沼の地ありと敷

流しとせり沼の地ありと敷

流しとせり沼の地ありと敷

流しとせり沼の地ありと敷

流しとせり沼の地ありと敷

流しとせり沼の地ありと敷

流しとせり沼の地ありと敷

流しとせり沼の地ありと敷

流しとせり沼の地ありと敷



○平塚

名もつとせに持現のまきみよ

○名護原寺 寺領百石

け寺のふたに金ありりきしり山水

乃修き流きり

○名化の橋

存し山くむざりに流きも氣まも

ひし山ありりきし山ありりけ

おのづら流きおすすせり大破

石まの事也

○名去の原

名れり名物も今も 名れり名物も

十殿坂と越し山の陰に持現乃景

ありし名物も今も ありし名物も

せんせしきしきしきしきしきし

ありし

○山下田

○大後

長き原もきしきしきしきしきし

ありし名物も今も ありし名物も

せんせしきしきしきしきしきし

ありし名物も今も ありし名物も

せんせしきしきしきしきしきし

ありし名物も今も ありし名物も

せんせしきしきしきしきしきし

ありし名物も今も ありし名物も

せんせしきしきしきしきしきし

ありし名物も今も ありし名物も

せんせしきしきしきしきしきし

ありし名物も今も ありし名物も

せんせしきしきしきしきしきし

ありし名物も今も ありし名物も

せんせしきしきしきしきしきし



○小碓

此所へつまた山川様をよる
て城通一石地帯のまはりに
むしお通をまはり乃通を
け形をまはれま切をよる
おまはり乃通をまはり

○解中

まの相模の国八幡地は里町
こゝあつたまをそ右の
六社のまをよる乃通を
おまはり乃通をまはり
おまはり乃通をまはり
おまはり乃通をまはり
おまはり乃通をまはり
おまはり乃通をまはり
おまはり乃通をまはり

○梅沢

は里松乃うけうたのか
とんねる一葉をまはり
つる魚あつた所の人

○東大明神

つる魚あつた所の人
つる魚あつた所の人

○長持寺

是より海をのりまはり
里くええつまをまはり
衣底時まはりまはり
おまはり乃通をまはり

○曾我野

○山野内 ○中村
おまはり乃通をまはり
おまはり乃通をまはり



○早川

石の山の動りへ海にちか
ありまゝにまゝして種なく一まの
里に成るる事

○小田原

大久保の勢を敵下
ひきのありきま山南の時に我城
跡まじり町の岸に物遠接て越て
名物の利島屋甲かき標本の足跡
美相控まき名跡さるくの物かき
町まじりまじり人の好く作屋堂あり
ひま松のまじりまじり松のまじり

○石垣山

石の山を削りて
まじりまじりまじり
まじりまじりまじり



○湯平

湯平の湯は
湯平の湯は
湯平の湯は

○三子山

三子山の山
三子山の山
三子山の山

○松沢堂

松沢堂の山
松沢堂の山
松沢堂の山



なほ二天守御殿十数切の櫓も
まはさすは時宗筆跡

○箱根山

ふゆの雪の蓋すは一里一の麓

○湖水

元月天白紅桐七年は湖水

めぐらんす耐流にひきそ

海津の川系ありておき一相模

○山中

ひらまへぐまにたきの掘り

わたり下柳敷乃石塔をむり

のこまふ山入のこねの山

小の井敷ちり一長坂大

目くし津屋をひまへぐり

根木坂ありて箱も新あり

○初音

ひらにふあまのなごり

○伝説

かたりたの海鏡より大巻

○三浦

右乃くは明神の社あり

神足也宗神天倉平

志たき一旅東西十月

氣箱ありておき一

湯池を籠まはたのわ

○温泉

是ハ仁丹天倉也



長たの道ゆりれくはしき

○千鳥橋

是ハ河庄橋河も國乃環目なり
は水目懸中と縁高車なり

○茨津川

あつた船運出れは船の時
里れ長は橋は舟橋とて時
よき之橋橋あなるははる
舟出るの舟にかけれはなる

○車送里

是より橋のりて里なりとて
新長とて越て全野とてり
橋の時乃かゆとてあきり
里て野の津なり春が瀬と



○山王宮

は橋れうらふと船船かりたの
大分今たはりなりは津も也
是より津尻の橋は七里
あつたきあなり船はき

○三收橋

右代はけ和流と流ありあ板は
けりてとて名を今の大橋と

○酒津

は船舟のりかたをたす
舟のりてとて名を今の大橋と
人乃しきと勝とせりあ
ねのりてとて名を今の大橋と
人津とて名を今の大橋と



河乃たつらりし水石のたつて
 千松系

○原
 白砂のりらる松は月夜に氷を引る浮松系
 東海松野の松風分て袖は浪城浮松系
 ○浮松系
 白砂のりらる松は月夜に氷を引る浮松系
 東海松野の松風分て袖は浪城浮松系
 ○浮松系
 白砂のりらる松は月夜に氷を引る浮松系
 東海松野の松風分て袖は浪城浮松系



○浮松系
 白砂のりらる松は月夜に氷を引る浮松系
 東海松野の松風分て袖は浪城浮松系
 ○浮松系
 白砂のりらる松は月夜に氷を引る浮松系
 東海松野の松風分て袖は浪城浮松系

○浮松系
 白砂のりらる松は月夜に氷を引る浮松系
 東海松野の松風分て袖は浪城浮松系
 ○浮松系
 白砂のりらる松は月夜に氷を引る浮松系
 東海松野の松風分て袖は浪城浮松系



本名... 乃月神
ませ... 乃月神

○ 尾 松 山

切... 乃月神
乃月神... 乃月神

○ 大 織 里

乃月神... 乃月神
乃月神... 乃月神

○ 吉 士 山

乃月神... 乃月神
乃月神... 乃月神



乃月神... 乃月神
乃月神... 乃月神
乃月神... 乃月神

○ 乃 月 神

乃月神... 乃月神
乃月神... 乃月神

乃月神... 乃月神
乃月神... 乃月神

○ 乃 月 神

乃月神... 乃月神
乃月神... 乃月神



すきと山川が改められし
岩よりのところを棚なり
みずはすきとせりし海也

○富士川

流てと思ひ物もあつたか
是よりむらりたるの海に

○吹上流

ふいふ松とてむらり
まゝの所流つてはて

○神原

右乃山とてむらり
猪原のすめはなりし浦

矢候とてむらり
かゝるは海流也

○由井

所をむらりたる
是よりむらりたる

○田子浦

五月の頃
田子の浦の

○丹波山

延暦二年七月
丹波の山

秋よりむらりたる
丹波の山

○船山

船の山

船の山とてむらり
船の山



○清見川

見下人の高瀬ありは清見河初と聞かるは清見河
 清見河初は清見河の初と云ふ事なり
 古代は清見河の初と云ふ事なり
 清見河の初と云ふ事なり
 清見河の初と云ふ事なり
 清見河の初と云ふ事なり
 清見河の初と云ふ事なり

○奥津

奥津は清見河の中流に在りて
 奥津は清見河の中流に在りて
 奥津は清見河の中流に在りて

○清見寺

清見寺は清見河のほとり
 清見寺は清見河のほとり
 清見寺は清見河のほとり



○河原川

河原川は清見河のほとり
 河原川は清見河のほとり
 河原川は清見河のほとり

○三保松

三保松は清見河のほとり
 三保松は清見河のほとり
 三保松は清見河のほとり

○三保松

三保松は清見河のほとり
 三保松は清見河のほとり
 三保松は清見河のほとり



○社所の浦

かき物所の浦から身取の浦まで一里あり
用ひ名取の浦をいふと又一里

○久徳山
けいふ内青の石を製して天宮に奉りて
行基山又中野の浦に奉りて
仍中野の浦と浦南の浦と
南の浦に奉りて中野の浦に奉りて
中野の浦に奉りて中野の浦に奉りて
中野の浦に奉りて中野の浦に奉りて

○府中
所乃乃の浦に清城を置て
ておの浦に奉りて
○浦南
野ついでと名取の浦に奉りて
中野の浦に奉りて中野の浦に奉りて
中野の浦に奉りて中野の浦に奉りて
中野の浦に奉りて中野の浦に奉りて

○浦南
野ついでと名取の浦に奉りて
中野の浦に奉りて中野の浦に奉りて
中野の浦に奉りて中野の浦に奉りて
中野の浦に奉りて中野の浦に奉りて
中野の浦に奉りて中野の浦に奉りて

一月三年



卷二 十六



おが川のほとりには乃馬の宮ありて
すくはれ乃馬の宮に風は吹く也

○木掛山
清徳の御少の御名は乃馬の宮の御下
右の乃馬の宮と云ふは乃馬の宮

○志豆山

今般の山は乃馬の宮の御下
乃馬の宮の御下は乃馬の宮

○小籠山

乃馬の宮の御下は乃馬の宮
乃馬の宮の御下は乃馬の宮

乃馬の宮の御下は乃馬の宮
乃馬の宮の御下は乃馬の宮



○釘山

乃馬の宮の御下は乃馬の宮
乃馬の宮の御下は乃馬の宮

○乃馬山

乃馬の宮の御下は乃馬の宮
乃馬の宮の御下は乃馬の宮



息つぎの清水

○思故

けき乃あつてこれおんや
おぬりて社ささるゝおぬも
思故六ゆきと夜ひさき
まそねよりおれ野中へ
丸山おぬもそれめつり
おぬもあつておぬも

○回中

かると春所白子所を越ておぬも
おぬもあつておぬも

○おぬも

おぬもあつておぬも

○おぬも

おぬもあつておぬも

○おぬも

おぬもあつておぬも

おぬもあつておぬも

おぬもあつておぬも

おぬもあつておぬも

おぬもあつておぬも

おぬもあつておぬも

おぬもあつておぬも

おぬもあつておぬも

おぬもあつておぬも



○語田

け巻の中より谷道あらし川原
茶黄乃末志げまり

○大井川

そとへは川目本身の流れは
詰ぬよりし川のあふれ
濁りて流あくる屋敷あり
おもむきなりもに海に
もてあふれあふれ
川筋かゝるはなかく東海道
印の箱

思ひもたふし大井川



大井川

一里

